



# 脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

～ 将来の発症リスクを予測する「LOX-index<sup>®</sup>」～



受診医療機関名 プリメディカクリニック

受診日 2021/1/8

氏名 demo 様

カルテID 000002

性別 男性 年齢 47歳

★受診日 2021/1/8

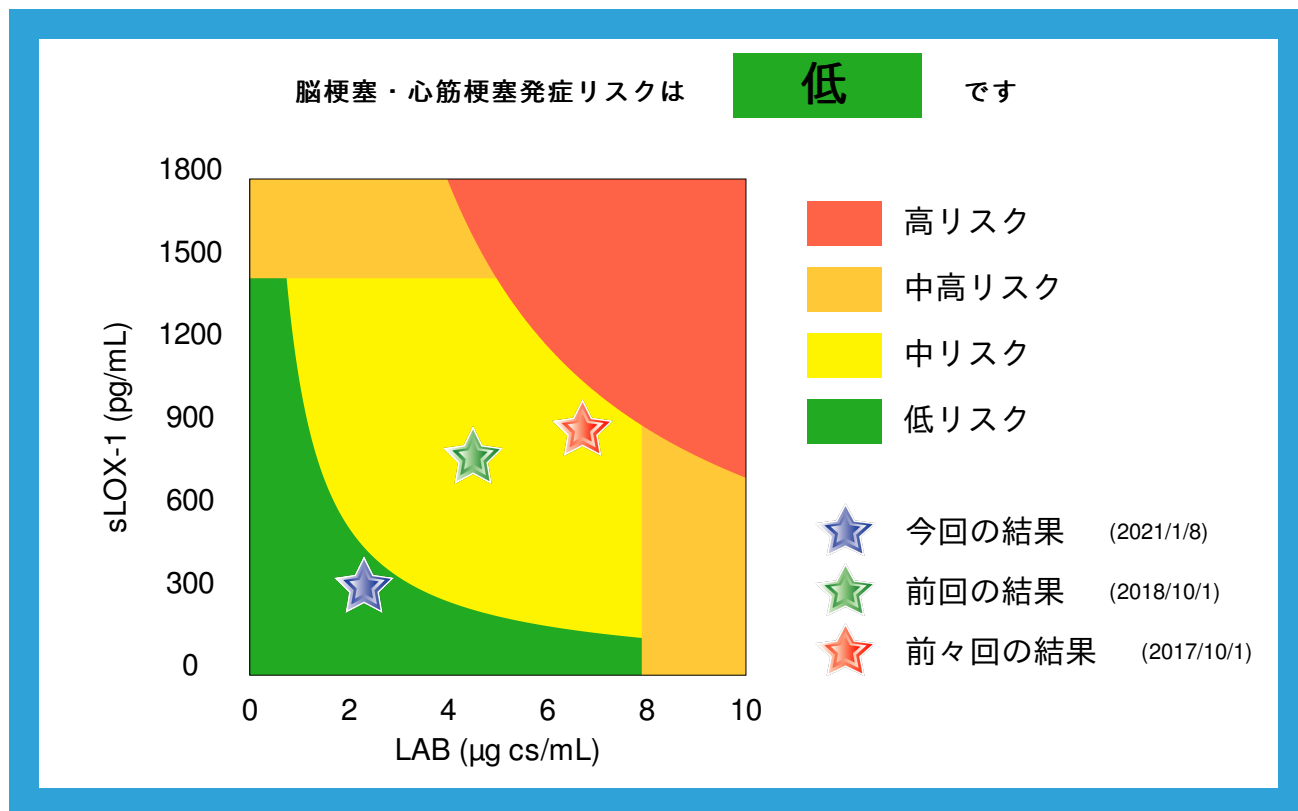
★氏名 demo 様

★カルテID 000002

★性別 男性

★年齢 47

## 総合評価グラフ

LOX-index  
とは？

動脈硬化の初期段階は、超悪玉コレステロール **LAB** (酸化変性LDL)と超悪玉コレステロールの担い手である **LOX-1** が結合することにより起こると考えられています。そのため **LOX-index®** は、LABとLOX-1を測定・解析することで、動脈硬化の初期段階を捉えることができます。また日本国内で行われた追跡研究の結果、**LOX-index®** が高いと将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍となることがわかっています。**LOX-index®** は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

## 総合評価コメント

今回のLOX-index検査の結果では、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクは低リスクと判定されました。

LOX-indexの値が低く、動脈硬化のリスクも低い理想的な状態と考えられます。しかし、動脈硬化が原因となる脳梗塞や心筋梗塞は、自覚症状がほとんど無いまま進行し、発症に至ります。脳梗塞・心筋梗塞は生活習慣の改善などで予防することができる可能性の高い疾患です。日頃からバランスの良い食事や運動を中心とし、今まで以上に健康的な生活習慣を心がけましょう。

また、予防や自身の健康状態を確認するためにも、LOX-index検査を定期的にご受診いただくことをおすすめします。

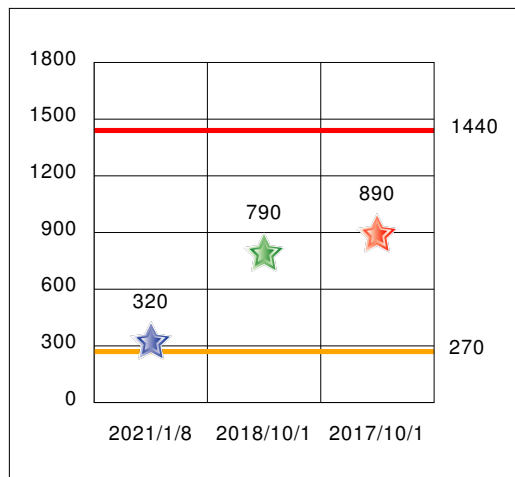
※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用いただくことはできません。

※ 本報告書は神戸労災病院 井上 信孝 先生にご監修いただいております。

受診コード：89DMGX07NP

## 個別時系列データ

### sLOX-1



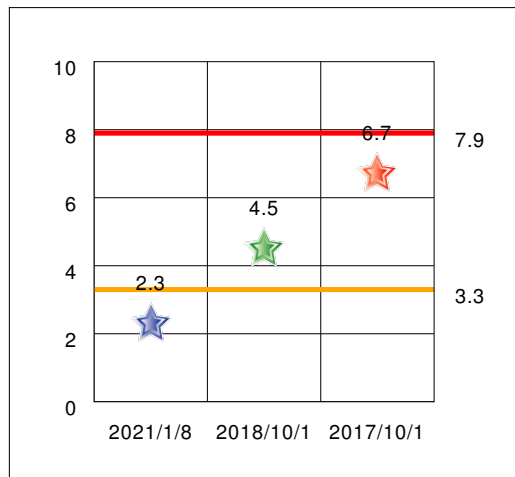
### 解説

LOX-1は血液中から異物を取り除く働きをしています。本検査で実際に測定しているsLOX-1はLOX-1が血中に溶け出した状態のもので、炎症で上昇することが知られています。血管に障害が起こるとsLOX-1の生成が促進されるため、sLOX-1は血管炎症の指標として利用されています。

今回の検査結果では、sLOX-1の値は前回と比べて改善し、理想的な値まであと一歩と判定されました。

ただし、安心は禁物です。動脈硬化は、特に加齢に伴って進行しやすくなります。また、高血圧や塩分摂取の増加、ストレスなどによりsLOX-1は高くなります。食生活の改善やストレスの解消などにより、健康的な生活習慣を心がけ、リスクの軽減に努めましょう。

### LAB



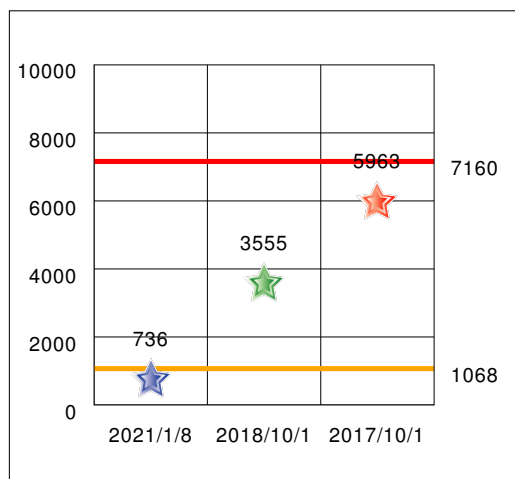
### 解説

超悪玉コレステロールLABは、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

今回の検査結果では、LABの値が前回と比べて改善し、理想的な状態と判定されました。動脈硬化が進行しにくい状態が保たれていると考えられます。

ただし、安心は禁物です。動脈硬化は、特に加齢に伴って進行しやすくなります。LABの値を理想的な状態で維持できるよう、今後も健康的な生活習慣を心がけましょう。

### LOX-index<sup>®</sup>



### 解説

「LOX-index<sup>®</sup>」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。この結果は、将来の脳梗塞・心筋梗塞発症率を大きく左右します。

今回の検査結果では、LOX-indexの値は前回と比べて改善し、理想的な状態と判定されました。このまま今の状態を維持できれば、将来的な脳梗塞・心筋梗塞の発症リスク低く抑えることができます。

ただし、安心は禁物です。今後、加齢などにより発症リスクが高まる可能性もあります。理想的な状態を維持できるよう、今後も健康を意識した生活習慣を心がけ、sLOX-1とLABを低く保てるようにしていきましょう。

# LOX-index<sup>®</sup>の総合評価について

## 高リスクの場合

すでに何らかの動脈硬化性疾患が発生している可能性があります。将来に心筋梗塞／脳梗塞を発症する危険性があります。

医療機関に相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

## 中高リスクの場合

高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。

医療機関に相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

## 中リスクの場合

差し迫って危険性はありませんが、油断は禁物です。高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。

人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえてドクターに相談してください。本検査単独で受診された方は、ドクターと相談の上で、2次検査を受けるか、生活習慣の改善に努めてください。

## 低リスクの場合

引き続き定期的にLOX-index<sup>®</sup>を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。

## 検査でリスクが高かった場合・・・

生活習慣の見直しと改善に取り組み、予防への対策に取り組むことをお勧めします。また、動脈硬化が進行している可能性が高いため、必要に応じて二次検査を受診しましょう。二次検査の結果を受けて、生活習慣の改善などの予防のアプローチを行うか、治療を行うか、さらに精密検査を行うかについては医師の診断を受けることをお勧めします。(以下参照)

### 代表的な二次検査

#### 頸動脈エコー検査

超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。プラークの有無や血管が狭くなっているかを調べます。

#### CAVI検査、ABI/PWV検査

動脈の硬さ、詰まりを検査します。手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べる検査です。血管年齢検査などとも呼ばれます。

### 代表的な精密検査

#### CT検査(コンピュータ断層撮影)

X線とコンピューターを使用し、心臓の状態を調べる検査です。

#### MRI/MRA検査(磁気共鳴装置)

電磁波を使用し、脳の断層像、血管の状態を映像化する検査です。

#### 心臓カテーテル検査

体内にカテーテルを通し、造影剤を入れ、X線撮影します。血管の状態を調べる検査です。

## LOX-index<sup>®</sup>についてより詳しい情報はこちらから

結果報告書の具体的な見方や解説方法、数値を改善するためのアドバイスなど公開中です。会員登録すると、会員限定のオトクな情報や限定健康コラムなども紹介しています。

<https://www.premedica.co.jp/mypage/lox-index/>

LOX-index 会員登録

検索



※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用いただくことはできません。

検査受託：  
株式会社プリメディカ

測定・解析：  
株式会社プリメディカ  
検査責任者 坂爪 洋